

# 2008年2月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



Mini-WANとは  
三河港湾事務所で従来から発行している広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

## ■巻頭コラム

### ■最近のトピックス

- 2007砂浜プロジェクト 表浜を作ろう！ ○豊橋商工会議所港湾部会開催
- 「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」開催
- 鳥取県から産地(くぼち)埋め戻し状況視察
- 新「豊川市」が発足 ○「衣浦地域のみなどを考える市長村懇談会」開催
- 「三河港ポートセミナー」開催 ○平成19年度補正予算成立

### ■お知らせ

- 「運河サミットin半田」開催！ 2月25日(月)14時～17時

☆CONTENTS☆



## ☆巻頭コラム☆

## 三河港湾事務所長 塩田 昌弘

2月4日、「衣浦地域のみなどを考える市町長懇談会」を当事務所主催により開催いたしました。関係の6市4町から、ご多忙の中8名の首長にもご出席頂き、主に衣浦港についての意見交換を行いました。岸壁、道路、臨海公園の整備等のハード面のみならず、規制緩和や「日本港湾大学」の設立といったソフト面まで、高い見識のご意見を多数いただきました。



2月12日には、「三河港港湾計画改訂委員会」が愛知県の主催により行われました。現計画では、豊川河口付近に広がる六条潟を埋め立て、新たな土地を造成することになっていましたが、環境への影響を考慮し、六条潟はそのまま残して沖合に人工島をつくる方向でまとまりました。

当事務所で管轄する2つの重要港湾について大きな会議が今月行われ、よりよい将来計画に向けて一歩前進することができました。

みなとの周辺は数多くの企業が立地しており、非常に生産性の高い地区です。一方、先日NHKのあるクイズ番組を見ていましたら、「海が見える場所」はプロポーズにふさわしい場所の第2位に選ばれていました。みなとはいろいろな意味で価値の高いエリアと感じています。この貴重な空間を活かし、地元の方々に喜んでいただけるよう、今後とも努めて参ります。

## 「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと  
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



## 国土交通省中部地方整備局

### 三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

### 衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)

## ○平成19年度補正予算成立

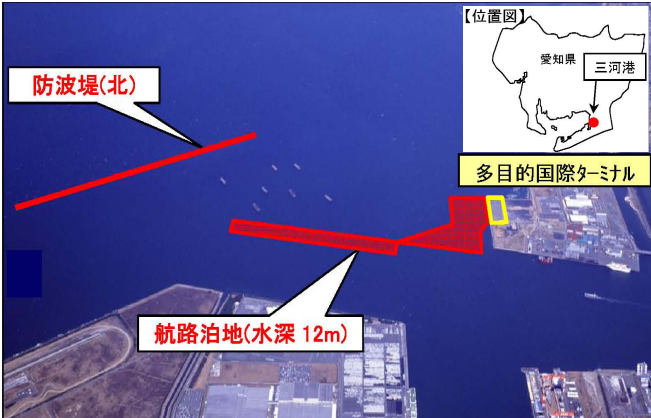
2月6日、平成19年度補正予算が成立しました。

真に必要な公共事業への重点投資化が進められている中、当事務所で整備している三河港神野地区多目的国際ターミナル事業の重要性が認められ4億円が配分されました。

これにより、地域の関係者から早期整備が望まれていた航路泊地(水深12m)の浚渫と防波堤(北)の整備を進めます。

また、愛知県が主体となり整備を進めている衣浦港武豊北ふ頭地区・中央ふ頭西地区の耐震強化岸壁、臨港道路等の港湾事業に6億円、海岸事業に1.1億円の配分がありました。

今後も、安全で利用しやすい港湾となるよう努めて参りますので、ご理解ご支援よろしくお願い致します。



三河港神野地区多目的国際ターミナルの整備



衣浦港(武豊北ふ頭地区・中央ふ頭西地区)耐震強化岸壁、臨港道路(橋梁区間)の整備

## ☆お知らせ☆ 「運河サミットin半田」開催！ 2月25日(月)14時～17時

2月25日(月)、半田市福祉文化会館(雁宿ホール)にて、半田市と愛知県の共催による「運河サミットin半田」が開催されます。

このシンポジウムは、半田市の市制70周年の記念行事として、半田市がめざしている景観形成による美しいまちづくりについての講演やパネルディスカッションが行われます。

また、小樽市、日南市及び半田市の名産品を販売など、同時に観光物産展を開催されます。詳しくは、下記のお問い合わせ先まで。

- と き 2月25日(月)午後2時～5時
- 場 所 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)講堂
- 入場者数 定員300名 入場無料
- 講演内容 「美しい運河のあるまち/日本三大運河の提唱」  
「運河の景観を活かしたまちづくり」パネルディスカッション
- 講演者・パネリスト紹介  
○講師・コーディネータ:名古屋大学大学院芸術工学研究科教授 瀬口哲夫氏  
○パネリスト:小樽市長 山田勝彦氏、日南市長 谷口義幸氏、半田市長 榊原伊三氏  
(株)JTBパブリッシング取締役編集政策本部長 鳥澤 誠氏

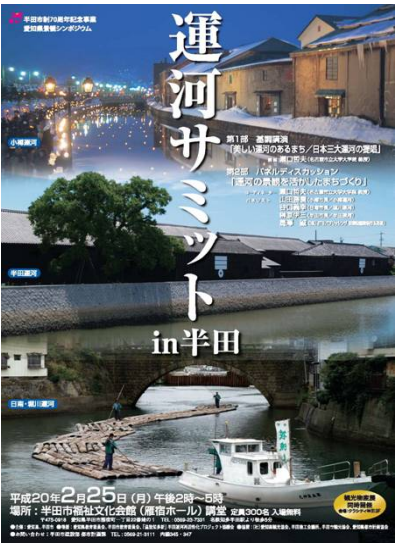
■観光物産展 会場 クラシティ半田3F  
2月23日(土)～25日(月)開催 午前9時～午後7時

■問合わせ 半田市役所都市計画課 (0569-21-3111 内線345・347)  
半田市HP <http://www.city.handa.aichi.jp/>

### ■会場案内

○運河サミット会場:半田市福祉文化会館(雁宿ホール)  
愛知県半田市雁宿町1丁目22番地の1 (0569-23-7331)  
(名鉄知多半田駅より徒歩5分)

○観光物産展会場:クラシティ半田3F/2月23日～25日  
愛知県半田市広小路町90番地 (半田市観光協会 0569-32-3264)  
(名鉄知多半田駅より徒歩1分)



## ○ 2007砂浜プロジェクト 表浜を作ろう！

1月14日、表浜の小島海岸で、NPO法人表浜ネットワークが主催する養浜活動「表浜を作ろう！～表浜の砂浜を推砂垣でみんなで作ろう～」が行われました。

当日は、風が強く寒い日にもかかわらず、地元の高校生や大学生、サーファーの方々など約30名が参加し、堆砂垣を製作しました。堆砂垣は冬から春にかけて吹く季節風（北西風）による飛砂を利用して砂浜の砂丘を作り育てるもので、近くに生息している竹を用いて高さ約1mの垣根を作ります。今回は3カ所の堆砂垣を作りました。冬の強い風に負けずに砂丘が育てくれれば嬉しいと思います。また、堆砂作りの合間には表浜に生息する植生の観察も行い、参加者は皆、砂浜に生息している多様な植生に驚いていました。

この活動は、4月までに月1回のペースで開催される予定で詳しい情報はNPO法人表浜ネットワークのホームページに掲載されています。皆さんも一度参加されてみてはいかがでしょうか？

☆表浜ネットワークに関する情報はこちら☆  
<http://www.omotehama.org/>

## ○豊橋商工会議所港湾部会開催



1月21日、豊橋商工会議所にて、平成19年度豊橋商工会議所港湾部会臨時部会総会が開催されました。

総会は、磯村会頭の挨拶で始まり、第19期の部会役員の選任や商工会議所の各種事業説明が行われ、引き続き当事務所の塩田所長が「港湾行政の動向について」という題で講演を行いました。講演では、港湾行政の変遷、国・港湾管理者の役割、港湾に関する重点施策、中部における港湾プロジェクト、三河港における多様な実施事業、平成20年港湾関係予算案等の説明を行いました。地元の関係者の方々に、当事務所の事業や港湾行政を理解して頂ける良い機会になりました。

## ○「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」開催

1月22日、美浜町図書館会議室にて、第3回「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」が開催されました。今回は、「じゃらんガイドブック」元編集長の今村まゆみ氏を招いて、「メディアをその気にさせる効果的な情報発信」という講演を頂き、「5W1Hで戦略を練る」「PR先を知る」等の効果的な手法について紹介頂きました。講演後のワークショップ会議では、これまでのセミナーを通し、各地区でまとめてきた地域の魅力や地域ブランドづくりをもとに、そのPR手法について議論されました。次回は、2月12日に日間賀島公民館において、各地区の今後の展開について発表が行われます。

## ○鳥取県から窪地（くぼち）埋め戻し状況視察

1月30日、鳥取県生活環境部水・大気環境課他6名の方が、当事務所へ視察に来られました。鳥取県では、中海の環境修復のために浚渫窪地の埋め戻しに取り組むべきとの議論がなされており、窪地の修復に先進的に取り組んでいる事例の見学先として当事務所を選ばれたものです。

当日は、当事務所会議室にて窪地修復に至った背景や効果などについての説明の後、当事務所の監督測量船「しおさい」に乗り込み、船上から修復海域周辺を見学されました。

昨年10月の熊本県議会の視察に引き続き、遠く離れた鳥取県にまで当事務所の活動内容が知られていることに驚きつつ、これからも環境改善に関して、先進的な事務所であるため努力して参ります。



挨拶をされる磯村会頭



船内での説明の様子

## ○新「豊川市」が発足

1月15日、豊川市・音羽町・御津町が合併し、新しい豊川市が誕生しました。

同日に行われた合併記念式典には、神田真秋愛知県知事、早川勝豊橋市長ら来賓、関係者、市民など、約1000人が参加され、新「豊川市」の門出を盛大に祝いました。式典では、山脇実市長が新たな地域づくりへの決意を力強く述べ、また、オープニングセレモニーでは、映像によって新豊川市が紹介されたほか、3市町の住民約210人が豊川市の市民まつり「よさこい演舞」を披露し、新市誕生に華を添えました。



豊川市は2度の平成の合併により、面積は約150km<sup>2</sup>となり県内9位、人口は約16万人となり小牧市、刈谷市を抜いて8位となりました。

もともと豊かな自然（本宮山や豊川等）に恵まれていましたが、今回の合併により新たに美しい海（三河湾）が加わりました。また、日本でも有数の規模の重要港湾三河港に接することで、今まで以上に工業・商業・農業のバランスのとれた街になることが期待されます。

三河港湾事務所では、旧御津町と同様、新「豊川市」を精一杯バックアップして参ります。

## ○「衣浦地域のみなとを考える市町村懇談会」開催

2月4日、衣浦グランドホテル（碧南市）において、「衣浦地域のみなとを考える市町長懇談会」を当事務所主催により開催致しました。この懇談会は、衣浦港周辺の市町村（半田市、碧南市、刈谷市、西尾市、知立市、高浜市、東浦町、美浜町、武豊町、一色町）の首長の方々、港湾管理者である愛知県に集まって頂き、今後の衣浦港のあり方について、意見交換を行うことを目的としています。

各首長からは、「周辺道路ネットワークの早期整備」「ふ頭用地の造成」「老朽化した海岸堤防の改修」「緑地やレジャー施設の整備」などの意見を頂きました。これらの意見に対して、中部地方整備局富田副局長から「需要や要請のあるプロジェクトはしっかり対応したい」と答えました。

多くの関係者が一同に会し、情報を共有できる大変貴重な機会でした。今後とも地元、県、国が連携し、よいみなとづくりに努めて参ります。



## ○「三河港ポートセミナー」開催



2月6日、「三河港ポートセミナー」がホテルアソシア豊橋（豊橋市）で開催されました。このセミナーは、昨年11月26日に東京で行われたものに続き、愛知県や三河港振興会が、東三河や静岡県西部の企業に三河港の利用促進を呼び掛けるものです。

開会の挨拶で、愛知県の湯山芳夫建設部長が、2基目のガントリークレーンの設置、道路網の整備促進等について説明し、三河港をPRしました。続いて、愛知県の神田高明三河港務所長が、三河港活用のメリットとして、物流コストの削減・CO<sub>2</sub>排出量削減による環境負荷の軽減・低廉な港湾施設使用料金を紹介するとともに、新コンテナターミナルの整備状況を報告しました。また、トピー工業㈱の鎌形和男スチール事業部総括部長から、三河港の活用事例として、利用港を三河港に変更したことによって、輸出コストを削減し物流の所要時間が短縮できたことが紹介されました。